

京丹後市都市拠点等の在り方検討会議 会議録

- 1 会議名 第1回京丹後市都市拠点等の在り方検討会議
- 2 開催日時 令和3年10月14日(木) 午後1時30～午後4時00分
- 3 開催場所 京丹後市役所2階 201・202・203会議室
- 4 出席者氏名
 - (1) 委員
森本賢一郎、藤井美枝子、堀井眞、今井みどり、味田佳子、田中智子、山崎高雄、嶋田健一郎、水田朋子、大庭哲治、水嶋式行
 - (2) 事務局
建設部長 吉岡浩司
同都市計画・建築住宅課 課長 中川正明、同課 課長補佐兼係長 井上浩一
市長公室長 川口誠彦
同政策企画課 課長 松本晃治、同課 課長補佐 大江敦博
- 5 内容
 - 委員委嘱
 - 委員長及び副委員長の選出
委員長：大庭哲治、副委員長：森本賢一郎、藤井美枝子
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴者 1人
- 8 議題
 - 検討会議の役割について
 - 検討する内容について
 - 検討スケジュールについて
 - 都市計画等まちづくりについて
 - 都市機能及びネットワークについて

(開会)

市長挨拶 コロナの中で、感染対策にも配慮しながら開催させていただいています。

ウィズコロナ・アフターコロナ・ポストコロナについて、展望も持ちながら、準備をさらに進めていくべき時期の入り口でもあると思っており、そんな中、待望の高速道路が大宮まで来ており、現在、峰山まで工事を着実に進めています。

京丹後全体のまちの活性化の大きな拠点であるマイン周辺に接続していくこの時期を捉え、どうまちづくりに活かしていくかが京丹後市にとって又ポストコロナを考えるべき非常に重要なタイミングであり、つき

ましては、この検討会において中心的な構想を作っていただきたい。
ポストコロナを展望しながら描いていくことによって、SDGs やゼロカーボンをどう取り込んでいくのかも問われます。

是非、京都・大阪から高速道路を降りたらそこには、未来都市が広がっていたというような、そんな検討をお願いしたいと思っています。

委員長 京丹後市都市拠点等の在り方検討会議という委員会の名前は、研究者にとって魅力的なテーマです。先程の市長の挨拶にもありました通り、京丹後市の未来をどう描いていくか、その中で都市の機能をどう描いていくかです。

高速道路が延伸しインターチェンジができ、ゲートウェイができるというところをどう捉えながら都市拠点を考えるか、重要なテーマであるとともに京丹後市の未来を描く楽しいテーマだと思っています。委員の皆様も将来世代にどう京丹後市を残していきたいのか、そういうご意見を賜りながら、構想を描いていきたいと思っています。

(事務局から資料に基づき説明)

(1)検討会議の役割について説明…資料2-1

(2)検討する内容について…資料3

(3)検討スケジュール…資料4

(4)都市計画等まちづくりについて…資料5

(質疑応答及び意見)

委員 しんざん小学校隣接地の検討場所は、用地買収は既に済んでいますか。

事務局 用地取得はしていません。この検討会の結論を踏まえ、必要な施設が公共的な施設であれば、用地協力をいただいた上で、整備を進めていきたいと考えています。

懸念しているのが、高速道路がつながることで、交通量が増えると予想しています。

あわせて道路整備は、京都府と市で対策を講じていきたいと考えています。

小学校が隣接しているということもあり、道路と学校の間がどのように整備されるのが望ましいのか、事務局としては、公共利用というものの観点から検討を進めていきたいと考えています。

委員 用地買収されていないのであれば、検討区域は変更の可能性もあるという理解で良いですか。

事務局 用地取得については、土地所有者との協議が必要であり、今現在、自由に使えるわけではありません。本検討会議では、こういった施設があれば、都市拠点として良いのか議論を進めていきたいです。

- 委員長 議論内容によっては、周辺の事も考える必要があるかもしれませんし、高速道路のインターチェンジ辺りを中心に考えなければいけないかもしれません。検討のエリアということで、認識しています。
- 委員 検討のエリアということで、必ずしもここに公共施設を持ってこなければいけないわけではないという理解で良いですか。
- 事務局 その通りです。
- 委員 道路整備について、夏場に交通量が増えます。交通量と施設がマッチしていかないと色々な問題が生じる可能性があります。
どのくらいの交通量が想定されていますか。
- 事務局 資料3の地図は国交省のデータを引用しています。312号線は1日あたり17,969台の記載があります。
高速道路は、随時整備されるため、峰山インターができ、しばらくの間は交通量が集中すると想定されます。
- 委員 大宮インターができたことで府道656号の交通量がすごく増えました。交通量が増えましたものの、道路の拡幅が難しいため、側溝の蓋掛けをして、やっと歩行できる状況にあります。
交通量の予測にあたり、生活道路も踏まえた検討が必要だと思います。
- 委員長 土地利用と交通は切っても切れない関係にあります。土地利用の変化に応じ交通も変化するため、同時に考慮しながら検討していくことになると思います。
資料4の検討スケジュールについてです。
- 委員 公共施設をこのしんざん小学校隣接エリアに整備するための議論という認識で良いですか。
- 事務局 市としては、しんざん小学校という教育施設があるため、アクセス道路との間が商業的に利用されるよりも公共的な土地利用が望ましいと考えています。
よって、公共的な土地利用を検討していきたいと考えています。
- 委員 子ども未来まちづくり審議会からは子育て関係の複合施設があったらいいという意見が出ていました。
中央図書館があったらいいなと思います。
バスターミナルがあり市内どこからでもバス一本で行けるような所だと使いやすいと思いました。
近くのマインまで簡単に行けるようになればいいと思います。
渋滞や抜け道の事故も気になります。
駐車場が沢山あり、行きやすい場所になればいいと思います。

事務局 いろいろな観点から意見を出していただき、都市拠点にどのような機能が
必要かをまとめていきたいと思っています。

資料2-1「しんざん小学校隣接公共用地整備スケジュール」のとおり、
2つの審議会の答申を踏まえた議論にしていきたいと考えています。

委員 未来に向かって発展するためには、京丹後新駅が必要だと考えていま
す。

「しんざん小学校隣接公共用地整備スケジュール」にある合併特例債の
関係を教えてください。

事務局 合併特例債は、合併したまちにとって有利な借金です。可能な限り、合
併特例債を活用した整備を計画しています。

(大庭委員長講話)

(5)都市機能及びネットワークについて…資料6

- ・日本の都市の在り方のキーワードは「コンパクト+ネットワーク」。先
進事例は、富山市の「お団子と串の都市構造」である。お団子は、徒
歩圏内の拠点、串は公共交通機能を示す。団子に串を刺すようにして
まちづくりを実現することを表している。
- ・都市機能のコンパクト化を実現する手法として立地適正化計画があ
り、考え方を模倣できる。
- ・都市機能は、都市活動を支える機能であり、それが集積する場が都市
拠点である。
- ・都市機能のみ整備しても市民がアクセスし享受できなければ意味がな
いため、ネットワークを合わせて検討する必要がある。
- ・将来を見据えた都市機能の検討は必要である。アフターコロナを見据
えても、人や機能を集積させる都市機能そのものの重要性は変わらない。
また、技術革新を踏まえたまちづくりの推進は求められている。
一方で、コロナを契機とした対応への変化は考慮しなければならない。
- ・官民連携によるまちづくりは進められている(事例紹介)。

(6)その他

委員 京丹後市になり18年経ち、ようやく市としての拠点を検討できるよう
になったと感じました。

魅力的な拠点づくりを進めていくと、若者が帰ってくるまちになり、人
口減少を緩やかにできるのではないかと期待できる印象を持ちました。

委員 地域福祉の観点からも複合施設が必要だと感じます。

総合相談窓口があれば、市民が気軽に相談にいけると思います。

- 委員 人口減少は止まらないと思います。
都市拠点の議論の中で、生活弱者が取り残されないような検討をお願いします。
- 委員 しんざん小学校の周辺に都市拠点ができることで、若者がその周辺に集まってくると思います。
市内転居が増え、丹後町、弥栄町、久美浜町が疲弊するのではないかと危惧しています。
高齢者が元気になるような施策も検討できたらいいなと思います。
- 委員 人口減少の現実はあるものの、あったらいいなという観点もこの検討会には必要だと感じています。
若者がUターンをする点は足りないと思います。
テレワークやWi-fiが自由に使えるようなところが少ないのであればいいと思います。
増築棟の検討の中で、子育て窓口が増築棟にできると聞きました。複合施設ができるのであれば、そこに総合相談窓口を設け、子育てのワンストップ支援ができればいいなと思います。
- 委員 文化芸術振興計画策定に取り組む市町村が少ない状況にある中、京丹後市文化芸術振興条例が制定され、計画策定について審議を行っています。
京丹後市は、食や自然が豊かなところで子育てができるのはよいことだと感じています。講話から、ドローンで移動できる社会になれば、今、不便と感じているものが不便でなくなると感じました。
ワクワクした気持ちで検討会に参加させていただきたいと感じています。
若い人の思いも反映していきたいです。
- 委員 ヨーロッパの都市づくりの話が都市拠点に似ていると感じました。
都市拠点をどのようにネットワークで結んでいくのかは重要になってきます。日本においても自動運転の実証実験が行われています。都市拠点の検討と最新技術による地域のネットワークを同時に議論することで、市民感情の溝を埋めることができるのではないかと思います。
- 委員 宅建業協会から参加しています。最近、市内転居が多くなっていると感じています。市内転居のため、人口が増える状況にはありません。転居者は既存のコミュニティに参加するわけではなく、学校のつながりでコミュニティを形成されているように感じています。新しいコミュニティの在り方についても、考える必要があると思います。
前職でアメリカの大学図書館の司書をしていました。新しい首長になると新しい図書館を建設する傾向があり、住民満足度を高める上で、図書

館は重要なポイントになっていると感じています。

中央図書館ができ、地域の資料が集まるのは良いと思います。ただ、テクノロジーの進化も踏まえ、こういった形の図書館が将来必要かという視点も入れていただいたらよいと思いました。

委員 京都府建築士会から参加しています。子供3人に峰山にどんな施設ができたらいいかを聞いてみると、小学生2人は、びっくりドンキーとバッティングセンター、中学生は、何も要らない現状で満足しているということでした。私自身は、書店とスターバックスが併設されている図書館など、好きな本をお茶しながら読めるというところがあればと良いと思います。

ネットワークについて、ドローンで移動できれば、今の課題が解決できるので、鉄道とかバスではなく、次の次元にチャレンジした方が結果として、早かったりすることもあるのかなと思います。

多くの人に求められる施設として複合施設は非常に妥当だと感じます。若い人が戻って来やすくなり、魅力あふれるという点に直結するのは、デザインだと思います。規模が小さくてもデザインだけは妥協せずに若い人たちのために頑張ってもらいたいと思います。

委員 都市拠点について考える上で、市民の皆さんがより快適に暮らしやすく集まる場所として考える視点とその地域外から人に来ていただく視点があるのかなと思いました。

公共施設について考える上で、民間活力の導入という点も必要かと思いました。

民間ディベロッパーに聞いてみて、可能性を探ることも考えられます。進行について、令和3年度はしんざん小学校隣接地のことに集中して議論を集約しながら取りまとめていかないと中間報告まで進めることが厳しいと思います。

(閉会)

副委員長 非常に活発な意見交換が出来たと思っています。次回は、今日の議論を
挨拶 踏まえ、さらに焦点化して議論が深まることをお願いします。